

平成16年度 第4回豊田市生涯学習審議会 会議録

【日時】 平成17年3月14日(月) 午前10時から11時30分まで

【場所】 豊田市役所 教育委員会議室(西庁舎8階)

【出席者】 (委員) 柴田富信(学識経験者) 会長
北川・久(学識経験者) 副会長
大岩つた江(豊田商工会議所女性会会長)
後藤冷子(青少年健全育成推進協議会代表)
斉藤秀平(愛知県教育大学教授)
酒井住雄(学識経験者)
平松 猛(市民公募委員)
牧野 篤(名古屋大学助教授)
松山美重子(小中校長会会長)
森 務(市民公募委員)
吉永チズ子(交流館長代表)
(関係各課) 自治振興課長 加藤武男
市民活動センター所長 水野孝一
世代交流課係長 小野修市
学校教育課長 神崎恭紀
文化振興課長 佐々木美好
図書館長 近藤範之
(事務局) 教育次長兼調整監 加藤柁志
生涯学習課長 水野孝之
副主幹 長谷川昇
主 査 加藤達志

【次第】 1 教育委員会あいさつ

2 会長あいさつ

3 議 題

(1) 17年度に調査研究する豊田市の生涯学習の課題について

- ・答申書で記載した課題例について
- ・中央図書館・交流館と学校図書館との連携協力について
- ・都市内分権と生涯学習について
- ・シニア-子ども連携プロジェクトについて

(2) その他

- ・名古屋大学教育学部の市民への授業公開について(報告)

4 連絡事項

【議事の摘要】

1 教育委員会あいさつ（加藤次長）

- ・ 愛・地球博の開催、合併による新豊田市の誕生など、新しい動きがある。生涯学習も教育委員会から市長部局に移り、生涯学習システム機構の設立は大きく期待されている。

2 会長あいさつ

- ・ 昨年12月に答申書をまとめ、2月には市長・教育長との懇談会で生涯学習システム機構について説明した。平成17年度は、生涯学習システム機構を設立し、調査・研究するための予算化をしている。さらに研究成果をスムーズに実践できるような仕組みを考えていきたい。

3 議 題

（1）17年度に調査研究する豊田市の生涯学習の課題について

事務局：（答申書に記載した課題例について説明）

会 長：多くの課題例が出されているが、平成17年度に全てではできないため、重要なものを2つ程度選んで調査研究を進めたい。

委員A：（中央図書館・交流館と学校図書館との連携協力について説明）

委員B：学校図書の実情をお話すると、学校には司書教諭がいるが、先生の中で免許をもっている人がやっているため、司書業務のみならず授業もやっている。司書のパートも考えられるが、制度はあっても予算がないのが現状であるため、教育委員会に図書に詳しい人がいると良い。また学校同士は情報ネットワークでつながっており、他の学校の本を予約する事ができる。

学校教育課：文部科学省の図書館ネットワークのモデル事業を2年間やってきた。しかし、民間運送業者に各学校間の本の運搬をやってもらっているが、各学校で本を購入した方が安いという課題があげられた。また8校で図書館司書をおいているが、今後は地域の人でできないか検討中である。

会 長：現在は本を読まない子が多い。子どもたちが学べるような場がほしい。

委員C：交流館の図書室は人気がある。また幼児や小学校低学年の親の利用が多いため、基礎教育の強化として本を活用していくと良いと思う。

委員D：現在の交流館をみると、スペース的に本を増やすことは難しい。学校の図書館との連携が当面重要な課題と思う。

図書館：交流館とコミュニティセンターをあわせ23の図書室がある。本の内訳は児童書が半分、一般書が半分である。学校図書館との連携は重要であるが、現在は別のシステムで動いており、どう結び付けているかが今後の課題であ

る。また交流館の図書の実態により、移動図書館の利用者は減っており、合併後は廃止となる。

委員 E : 交流館の図書の 3 / 4 は児童書と感じる。一般の人にはヒットする本が少なく、魅力がないのではないかと感じる。借りるのは中央図書館、返却は交流館ということになる。

会 長 : 図書の連携は重要なテーマであり、今後、実態を調べる必要がある。

委員 F : (都市内分権と生涯学習について、シニア - 子ども連携プロジェクトについて説明)

牧野委員 : 現豊田市の交流館については、既に調査済みであるが、合併町村の新しく交流館になるところの実態把握をし、交流館のあり方を提案していきたい。住民の学習の仕方、自分のまちに参加する道筋をたて、実践していきたい。

事務局 : 現在の交流館は各中学校区に 1 館、全部で 20 館ある。今後は合併町村に 1 つずつ配置する。

委員 D : 都市内分権を実践するにあたり、合併町村は自分たちの良いところを伸ばすとともに、現豊田市の良いところを学んでほしい。

自治振興課 : 都市内分権は、地域の課題は地域で解決するというところであるが、合併が前提であるため、新豊田市としての方向性で進めることが大切である。国から地方へ権限委譲の流れがある中で、新豊田市でも都市内分権は重要であるが、来年度から全てできるわけではない。

柴田会長 : 町村の実態がわからないのが現状である。

委員 C : 現豊田市と合併町村ではリズムが違う。合併町村が現豊田市のやり方を覚えるには時間がかかるだろう。

事務局 : 合併したからといって全てを現豊田市に従うわけではない。2 年かけて地域の実情を把握していく。また来年度の社会教育委員は、合併町村から 1 人ずつ選出する予定である。

委員 F : 都市内分権と自己責任は一体である。住民がより良い生活を送ることが目的であり、そのための調査をしていきたい。

会 長 : 自発的とやる気が、人づくり・まちづくりの基本である。合併町村も含め、やる気のある人が中心となって進めてほしい。

世代交流課 : シニアと子どもの連携は重要であると思う。

委員 E : 環境学習施設整備にかかわっているが、なかなか主体的に人が参加してこない。自発的に活動できる仕組みづくりの研究が必要ではないか。

委員 G : 交流館の利用者にもやる気のある人はいるが、そのきっかけづくりが大切であると思う。退職した人、交流館を利用し始めている人が色々な事に関われるきっかけづくりの提案を期待したい。

委員 H : 交流館はここ 1、2 年でとても良くなったと思う。

委員D : 豊南交流館は自主的にやっているグループが多く、ボランティアの活動に結びついている人が多いと思う。

委員H : 施設を利用してもらうには市民を受け入れる気持ちが大切である。

会 長 : 平成 17 年度は、「中央図書館・交流館と学校図書館との連携協力」と「都市内分権と生涯学習」についての調査研究を進めていくこととする。

(2) その他

委員F : 名古屋大学教育学部の市民への授業公開について(報告)

4 連絡事項

事務局 : 行政各課の連絡調整の場を設けていきたい。